

令和3年度 校内研修計画

1 研究主題

自ら考え、学び、共に高め合う、コミュニケーション力をもつ子の育成
～道徳科の授業を要とした学校教育全体での道徳教育の充実を通して～

2 研究主題について

岩国中学校区の小中一貫教育を進める過程で、共通で「コミュニケーション力」に課題があるという実態が見えてきた。平成31年度は、これまでの研究主題に加え、コミュニケーション力を高めるためにどのような手立てをするかということ考えた授業づくりに取り組んだ。授業の中で、友達に説明したり、自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりすることで、自分の考えを深めることができたり、よりよい考えにたどり着くことができたりする児童の姿が見られた。

令和2年度からは、山口県の「やまぐちっ子の心を育む道徳教育プロジェクト」の指定を受け研究主題を「自ら考え、学び、共に高め合うコミュニケーション力をもつ子の育成～関わり合いの中で、価値理解、人間理解、他者理解を深める授業づくりを通して～」として、「特別の教科 道徳」の授業を中心に、児童の心を育みながらコミュニケーション力を意識して研修を進めてきた。3つの視点を中心に発問を考えたり振り返りの仕方を工夫したりしながら、授業づくりをすることで、全校で道徳科の授業力の向上を進めることができた。

本年度は、昨年度の成果と課題を受け、道徳科の授業を要として、学校教育全体での道徳教育も意識しながら研究を進めていきたい。

3 主題設定の理由

(1) 社会的な背景から

児童を取り巻く社会状況は加速度的に変化し続けている。成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また、急速に変化しており、予測困難な時代となっている。このような時代の中で、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構成することができるようにすることが求められている。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止を進める中で、人と人とのつながりの大切さや、人を責めるのではなく相手を思いやるなどの人権意識の大切さを改めて再認識する必要がある。

このような社会の中で生き抜くためには、他者の意見に耳を傾けて多様な考えを受け入れる柔軟性をもったり、自分の言動が周りにどのような影響を与えるかを考えたりする必要がある。また、指示を待って行動するのではなく、すすんでコミュニケーションをとることや、様々な情報を取捨選択し、正しい判断をして自ら行動できるようになる必要もあると考える。

(2) 学校の教育目標から

本校では、「豊かな心を持ち たくましく生き抜く 岩国小児童の育成」を教育目標としている。また、それを目指す児童像に「意志の強い子」「和を大切にする子」「工夫して取り組む子」「忍耐強くしなやかな子」を掲げている。互いに学び合う中で、支え合い、認め合う関係をつくりながら、自ら進んで考え、伝え合い、表現するコミュニケーション力の高い岩国小児童の育成を目指すことによって、学校の教育目標を具現化できるものと考えられる。

(3) 本校の実態から

本校校区は岩国市の中心に位置し、吉川藩の城下町として発展してきた町である。校区には錦帯橋をはじめとする文化財や多くの歴史的建造物が存在している。地域性を生かした伝統・文化教育により、自分の住む町のすばらしさを学び、学習したことを家族や地域の

人々に伝えたいという思いをもっている。児童は、明るくのびのびと生活しており、様々なことに興味をもって学習に取り組んでいる。

2018年度から始まった「特別の教科 道徳」の授業では、教科書とノートを使って、「考え議論する道徳」の授業をめざして授業改善に取り組んでいる。児童は、一つ一つの教材について一生懸命考え、自分の思いや学んだことを、ノートに書いたり話し合ったり発表したりしている。しかし、自分の考えをもとうとしているが、友だちの意見を聞いたり、教材文の中の登場人物の視点になって考えたりするなど、多面的多角的に考えることに課題がある。

休み時間等には、友だちと積極的に関わろうとする児童がいる一方で、人から話しかけられないと自分から関わらない児童もいる。また、自分の思いばかりを押しつけてしまい、相手の思いや状況を考えずにトラブルになってしまうこともある。困ったときに自分から助けを求めたり、トラブルになる前に、相手の思いを考えたりできるようになれば、よりよい人間関係を築くことができるということを、児童自身が気づけるようになってほしい。

昨年度末に、めざす児童像「㊦ 意志の強い子 ㊧ 和を大切にする子 ㊨ 工夫して取り組む子 ㊩ 忍耐強くしなやかな子」に対しての児童の実態を分析した結果から、本年度は道徳教育の重点内容項目を、低学年は【希望と勇気、努力と強い意志】【善悪の判断、自律、自由と責任】【親切、思いやり】の3つ、中・高学年は【希望と勇気、努力と強い意志】【善悪の判断、自律、自由と責任】【相互理解、寛容】の3つに絞って教育活動を進めることで、「豊かな心をもちたくましく生き抜く岩国小児童の育成」に努めていきたい。

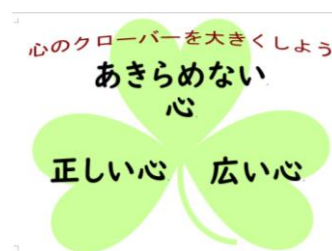
4 研究の仮説

- (1) 道徳科の重点内容項目を意識して教育活動を進めることで、本校のめざす児童像に近づくことができるのではないだろうか。
- (2) 道徳の授業の中で、考える必然性や切実感のある発問や、自己の生き方について考えることのできる発問をすれば、一人ひとりが考えたり友だちと話し合ったりすることができ、価値理解や人間理解、他者理解を深め、コミュニケーション力を高めることができるようになるのではないか。
- (3) 児童評価シートを活用して授業をすることで、深い児童理解ができ、より明確な評価ができるのではないか。また、日々の授業改善にもつながるのではないか。

5 研究の視点

- (1) 学校における道徳教育全体の視点（心のクローバーの活用）

- | | |
|-------|---|
| 1～2年生 | A (5) 希望と勇気、努力と強い意志
A (1) 善悪の判断、自律、自由と責任
B (6) 親切、思いやり |
| 3～6年生 | A (5) 希望と勇気、努力と強い意志
A (1) 善悪の判断、自律、自由と責任
B (10) 相互理解、寛容 |



- (2) 研究授業の視点

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 視点1 | 考える必然性や切実感のある発問の在り方 |
| 視点2 | 物事を多面的・多角的に考えるための交流の在り方 |
| 視点3 | 自己の生き方について考えることのできる発問と振り返りの在り方 |

- (3) 児童評価シートの視点

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか
- ①道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。
- ②自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。

③複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

○道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか

④読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。

⑤現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に注目している。

⑥道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めている。

⑦道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

6 研究の内容

(1) 学校教育全体を通じた道徳教育

- ・別葉の活用
- ・重点内容項目に沿った教育活動の充実（心のクローバーの活用）

(2) 授業づくり

- ・発問の工夫（考える必然性や切実感のある発問・自己の生き方について考えることのできる発問など）
- ・評価の工夫（児童評価シートの活用）
- ・ワークシートの共有

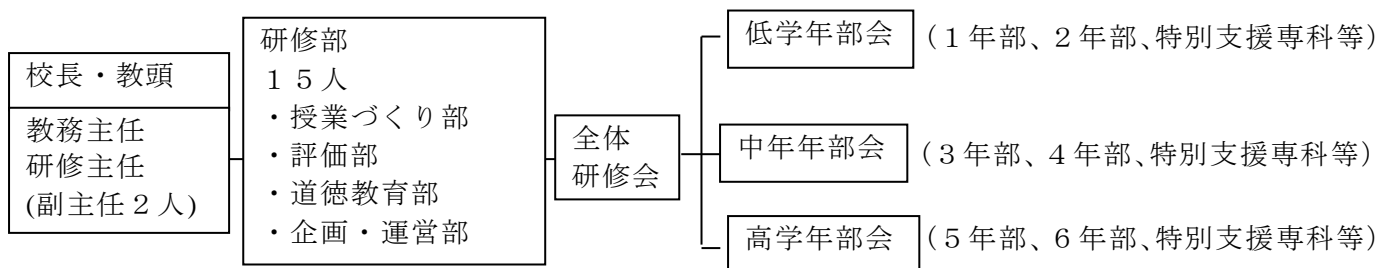
(3) 講師を招聘しての全体研究授業（低学年・中学年・高学年の公開授業）

- ・ワークショップ型研究協議、教師相互評価による授業改善
- ・隣接学年での教材研究及び授業研究（全体授業をしない学年は、11月までに同じ内容項目の教材で授業研究をする。研究発表当日に実践を掲示する。特別支援学級は、児童に応じた授業研究をする。）
- ・ブロック(低学年ブロック・中学年ブロック・高学年ブロック)ごとの指導案検討

(4) 地域・家庭と一体となった取組

- ・いこいの日（毎月15日のノーメディアデーに、親子読書を推進）
- ・学校運営協議会委員の校内研修への参加
- ・地域公開参観日での道徳科の授業の実施
- ・生活科・総合的な学習の時間での地域学習の充実

7 研修組織



令和3年度 研修の予定

期日	研 修 予 定
4月28日(水)①	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の研修テーマの確認 ○年間研修予定 ○研修組織の確認 ○授業づくりについて ○「児童評価シート」について ○「教員の相互評価シート」について ○重点内容項目に沿った教育活動の充実について ○学力向上プランの作成
6月2日(水)②	<ul style="list-style-type: none"> ○学年研修(題材・教材研究等) ○「児童評価シート」の活用についてのふりかえり ○授業実践についての情報共有
7月21日(水)③	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育について ○全国学力・学習状況問題(6年生)と確認問題(5年生)の分析
8月6日(金)④	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業の指導案検討
8月24日(火)⑤	<ul style="list-style-type: none"> ○各ブロック研修・学年研修・教材研究・指導案作成等
9月15日(水)⑥	<ul style="list-style-type: none"> ○授業説明
10月13日(水)⑦	<ul style="list-style-type: none"> ○研究大会に向けての資料作成 ○授業説明 ○学力向上プランの作成
11月4日(木)⑧	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳研究大会
1月19日(水)⑨	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳研究大会の反省 ○研究集録の原稿作成 ○重点内容項目に沿った教育活動の充実についてのふりかえり ○「児童評価シート」の活用状況について
2月9日(水)⑩	<ul style="list-style-type: none"> ○研究集録の原稿作成 ○学力向上プランの作成 ○1年間のまとめ、来年度への課題の共有